



寺内研究室では、建築設計、デザインサーベイなど「デザイン」をキーワードに活動しています。また、こうした活動の理論的根拠を求めて、建築や都市空間を対象に意匠論および空間構成論として研究を進めています。建物だけでなく公園やまちなみといった、私たちを取りまく環境全てに興味をもち、特徴を理解することから、デザインは始まります。設計競技や、住宅の設計、まちづくりなど、様々なプロジェクトを通して、地域のみなさんに愛されるデザインを提案しています。



教授 寺内 美紀子

東京工業大学助手、茨城大学准教授、信州大学准教授を経て2018年より現職。専門分野は、建築設計、建築意匠。住宅からまちづくりまで様々な対象でデザイン活動を展開。建築や都市空間の空間構成に関する研究も行う。

>> 私の学問へのきっかけ

子どもの頃から、絵や工作が好きで「手をつかう」仕事に就きたいと思っていました。高校の学園祭で舞台装置を作ったとき、受験先として「建築学科」を意識しましたが、友達の応募書類をもらって受験したくらいで、大学に入学した当初は深く考えていませんでした。なんとなくそのまま進み、大学院で建築意匠の研究室に進んで、様々なプロジェクトに関わるうちに建築設計の世界に入る覚悟ができたように思います。

>> 研究から広がる未来

寺内研究室では、様々なデザイン活動に取り組んでいます。調査・ワークショップ・実施設計という息の長いプロジェクトもありますし、短期間でベストな提案を出す設計コンペティションにも参加しています。研究室はひとつのチームです。研究室で一体となつてより良いデザインを探求します。

>> 卒業後の未来像

建築設計事務所や建設会社など設計や施工部門に卒業生を多く輩出しています。また、公官庁やコンサルといった公共施設の企画や運営に携わったり、編集デザインや内装設計にすむ卒業生もいます。デザイナーとして幅広いジャンルで活躍してくれることを願っています。



ショッピングモール内アミューズメントパーク ASOBLÉ キッズエリアの設計。店舗看板、ボールプールと一体化したドーム、シアター、スツール、マットによる遊び空間を設計（2026年度日本建築学会デザイン発表）



天龍村ウェルケアの郷、福祉施設計画第二期策定に際し、多種多様なナラティブを村の将来像に集約すべく、高齢者施設の再建を目指す

先鋭融合

建築学

研究キーワード

建築設計・建築意匠・デザイン・空間構成・都市空間・まちづくり

研究シーズ

- 遊具的モニュメント、ツリーハウスなど“小さな木造”のデザイン
- 既存環境・資源のアップサイクル
- 地域拠点となる総合的な未来型福祉施設のデザイン
- コミュニティスクールのための基礎的デザイン研究
- カフェ内装、民家改修など
- 公共建築の実施プロポーザルの参加
- 空間構成論から設計論への展開
- 住民ワークショップの企画・運営
- 都市空間のサーチと都市デザインの実践
- 中心市街地から中山間地域まで含めた“まち”の再生

共同研究・外部資金獲得実績

- 建物履歴を使ったテラーメードカルテの構築と中山間地域の空き家解消プロセスの構築（科研費 挑戦的萌芽（代表））
- 被災地における観光復興を核にした持続的地域社会モデル構築に関する研究（科研費 挑戦的萌芽（分担））
- 中山間地域の遊休化施設の改修による小規模多機能型地域拠点モデルの提案（科研費 基盤C（代表））
- 長野市公共施設再配置に関するワークショップ支援（日本管財）
- 「福祉総合コミュニティ/七色の街づくり」を実践するためのデザインに関する研究（社会福祉法人北アルプスの風共同研究）
- 「長野飛行場歴史保存・伝承活動」（芹田商工振興会）
- 天龍村福祉施設計画作成支援（天龍村）
- 阿智村義務教育学校建設検討支援（阿智村）

最近の研究トピックス

近年、ツリーハウス作り／小学校総合学習支援、中学校部活動地域移行に伴う居場所づくり、廃校跡地の避難公園改修など、地域の貴重な空間資源である学びの場のデザインに取り組んでいます。



旧筑北小学校避難公園



犀隈中学校中庭ベンチ改修計画

Architecture Division

Expanding the possibilities of design
from architecture to urban spaces



At the Terauchi Laboratory, we focus on "design," including architectural design and design surveys. In addition, in search of a theoretical basis for these activities, we are conducting research into design theory and spatial composition theory for architecture and urban spaces. Through a variety of projects, including design competitions, residential design, and urban development, we propose designs that are loved by local residents.



Professor Mikiko Terauchi

An assistant professor at the Tokyo Institute of Technology, an associate professor at Ibaraki University, and an associate professor at Shinshu University before assuming my current position in 2018.

>> Beginnings of my path to academia

Ever since I was a child, I loved drawing and crafting, and I wanted to work in a job that involved using my hands. When I made the stage set for my high school festival, I considered applying to the Department of Architecture, but when I first entered university, I didn't give it much thought. I went on to study in an architectural design lab in graduate school, and as I got involved in a variety of projects, I think I was ready to enter the world of architectural design.

>> In the Future

The Terauchi Laboratory is involved in long-term projects that go from the research stage through workshops to detailed design, and also participates in design competitions that require the best proposals within a limited time frame. The laboratory works together to find better ideas.

>> After Graduation

Many of our graduates work in the design and construction departments of architectural design offices and construction companies. Some graduates also go on to work in the planning and management of public facilities at government agencies and consulting firms, or go on to work in editorial design or interior design.



Design of the kids' area for the ASOBLE amusement park inside a shopping mall. Designed a play space incorporating store signage, a dome integrated with a ball pit, a theater, stools, and mats (2026 AIJ Design Presentation).



Tenryu Village Wellcare Village. we aim to integrate diverse narratives toward the future vision of the village by rebuilding elderly care facilities.